



たくさんの仲間とたくさんの笑顔を セカンドハーベスト名古屋

SECOND HARVEST NAGOYA PRESS

2016.4.30

NO.6

SECOND
HARVEST
NAGOYA
NPO法人 セカンドハーベスト名古屋

発行元 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋
〒462-0845 愛知県名古屋市北区鶴原3-4-2 小菅ビル1F
TEL:052-913-6280 FAX:052-913-6281
E-mail:info@2h-nagoya.org URL:<http://www.2h-nagoya.org/>

編集／印刷 橋本写植



特集

豊かな 生活の中に 埋もれる悲鳴

「解雇され、所持金がほとんどない」「介護のため就業できない」

「子供が生まれた。夫が働いているが、妻は子供の世話でまだ働けない。生活費が足りない」

「失業した。次の職場が見つかったが、給料が入るのは2カ月後。それまでの生活費がない」

FAXには、生活に行き詰った人たちの切迫した状況がつづられています。

このFAXは、各地の社会福祉協議会（社協）や自立サポートセンターから届いたもの。緊急食料支援の依頼書です。

「共働きだったが、夫が病気で休職し、収入が減つて生活が苦しくなった」

仕事はあるもののギリギリの生活を余儀なくされている人たちは、何かの拍子に生活の基盤が崩れてしまいます。

セカンドハーベスト名古屋（以下2HN）は、

2014年に名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンターと提携して、生活に行き詰った人たちに緊急に食料を届ける活動を始めました。2015年には提携先を愛知・岐阜・三重各地の社協に拡大しました。現在の提携先は同サポートセンターをはじめ、愛知県下19、岐阜県下20、三重県下30の社会福祉協議会。ほかに社会福祉法人やNPOとも提携しています。

CONTENTS

特集「豊かな生活の中に埋もれる悲鳴」p.1~2
食の現場からp.3 新理事長より

困窮者的心をほぐす

「センターに相談にいらした時点で所持金がない人もいます」(名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター所長・大熊宗磨氏)

相談窓口には、もう何日もまともに食べていない人が訪れることもあります。窓口によっては、すぐにその場で手渡せるように食品の在庫を置いて、緊急のケースに対応できる体制を整えていきます。食料支援の効果がはっきりと見える瞬間です。

生活に行き詰った人の中には、かつて役所の相談窓口を何回も訪れたが、つらい思いを聞いてもらえず、社会に対するあきらめに至った人もいます。「一緒に解決しましょう」

相談窓口の職員は、食品の詰め合わせを用意して少しずつ信頼関係を築いていきます。かたくなな心がほぐれるまでには時間がかかりますが「食品を提供することで支援対象者との距離が縮まり、信頼を得やすくなります」(大熊氏)。

現に生活が行き詰まっている窓口に相談しようとしないケースは対処が困難です。しかし明らかに家族が困窮しているとなれば、傍観することはできません。このような場合は、信頼関係を築くためのハードルも高くなります。

「以前は何度も繰り返し訪問する以外に手立てがなく、話ができるようになるまでに大変な時間がかかりました」(社協職員)。食料支援を利用できるようになって、そのハードルが低くなったといいます。

孤立しがちな困窮者を社会につなぎとめる一翼を、食品の詰め合わせが担っています。

生活を立て直す第一歩

単身者であれば、1回の食料支援で3週間程度の食事をまかなえます。1つの世帯が、その食料支



援を原則として3回まで受けられます。

生活に行き詰まると、人は一日一日をどうやってやりくりするかで頭がいっぱいになり、やがて判断が目先のことになると左右されるようになります。しかし、食料支援で当面の生活の不安が和らぐと「当初は目先のことしか考えられなかった人も、落ち着いて先のことを考えられるようになります」(大熊氏)。生活を立て直すきっかけとして、食料支援が一つの役割を果たしています。

電気や水道などの料金を滞納し、ライフラインを止められてしまう家庭も少なくありません。電気もガスも止められているとご飯を炊くこともできませんが、2HNからは、アルファ米やシリアル、ドーナツなど、調理せずに食べられる食品を提供しています。「食料支援を通じて食費を浮かせることで、滞納したライフライン料金を支払い、家計を立て直すきっかけにすることもあります」(大熊氏)。

人間らしい暮らしを求めて



食料支援の役割は、命をつなぐことだけではありません。

生活に行き詰まつた人々は「生きるために精一杯の日常を繰り返すうちに、いつの間にか心のゆとりも失ってしまいます」(大熊氏)。

2HNでは、食品を詰め合わせるときにお菓子や飲料も入れています。

「お菓子が入っており、子供たちが大変喜びました」「箱を開けたらコーヒーが入っており、涙が出ました」(食料支援を受けた女性)

食費を切り詰めてしのぐ生活を送るうちに、気づけば買わなくなっていたコーヒー。決して栄養価の高い飲み物ではありませんが、大切な心の支えになります。

(取材：水谷淑見)

● キッチンの主役は子供たち



社会福祉法人 昭徳会
ドミトリー駒方
(名古屋市昭和区)

「先生、タマネギはもういい？」

「それくらいだとまだ辛いかな。もっと透き通るまで炒めようか」

中学生の女の子が夕食の炒め物を作るカウンターキッチン。その向こうでは、先生の前で男の子が本を朗読している。日課の「本読み」だ。



子供たちが「先生」と呼ぶのは地域小規模児童養護施設ドミトリー駒方の職員。施設の建物は一般住宅と同様の造り（ただし子供部屋のある2階は男女別）になっており、家庭的な環境の中で、幼稚園児から高校生まで6人の子供たちが職員とともに生活している。

子供たちは調理にも積極的に参加する。

本の朗読を終えた男の子が職員と一緒にキッチンに立った。リンゴを切り分け、皮をむく。



このリンゴは市場から2HNを経てドミトリー駒方に提供された。一度市場に入荷した農産物は、余剰となった場合でも農家への返品

が認められていない。買い手がなければ廃棄される。2HNでは、このような農産物も引き取ってさまざまな施設や団体に提供している。

包丁を手に試行錯誤する男の子。隣で一緒にリンゴを切っていた職員が声をかける。

「うさぎを作りたい？うさぎを作るときは、こうやって……」

ドミトリー駒方のキッチンはコミュニケーションの場だ。食が子供たちの体を育むだけではない。食が子供たちの「やりたい」を引き出す。今日の「できた」が明日の「やりたい」を生む。



今晚のメニューはトンカツ。子供たち一人一人が「できること」を持ち寄って、その「できること」を形にする。「できること」が増えていく。やがて巣立つ日に向かって。



（取材：水谷淑見）

フードバンク活動へのご協力とご支援のお願い

セカンドハーベスト名古屋は名古屋市の認定を受けた認定NPO法人です。

セカンドハーベスト名古屋に寄付した企業・個人は、税制上の優遇措置を受けることができます。

※認定NPO法人とは、NPO法人のうち、一定の要件を満たすものとして各自治体から認定を受けたものをいいます。

銀行振込

口座：三菱東京UFJ銀行 栄町支店 普通口座 **口座番号：**0015287
口座名義：特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋

ゆうちょ銀行振込

支店名：二一八支店（ニイチハチ） 普通口座 **口座番号：**3805775
口座名義：特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋

新理事長より

今年度、本岡からセカンドハーベスト名古屋の理事長職を受け継ぎました山田康弘です。

私は平成13年12月に体調不良で理事を辞任して2年ぶりにカムバックしましたが、この間に2HNは大きく変化していました。事務所は東区主税町から北区柳原に移転し、行政と連携して活動するようになっていました。

2HNでは以前から、生活に困っている人がどこにいるか探し求めてきました。しかし生活窮者はなかなか見つからず、多くの支援団体に食品を提供することで本当に困っている人に届くはず、と考えて活動してきました。

それが今では、愛知県・岐阜県・三重県の生活に困っている人に食品の詰め合わせを確実に届けられるシステムが構築されています。

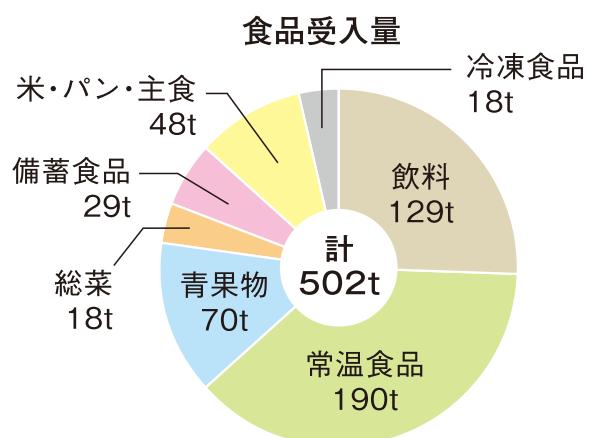
この2年間で、2HNの活動レベルは確実に上がりました。その活動をさらに拡大し、「もったいない」の精神を忘れず、食のセーフティネットを充実させるように努めます。

今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

理事長 山田康弘

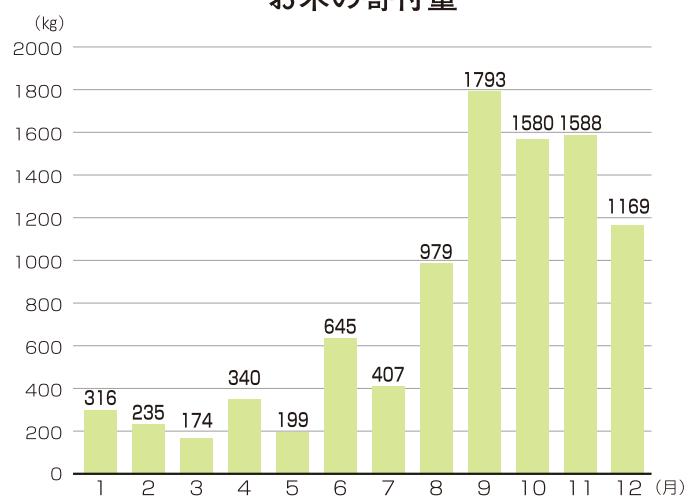


2015年 食品取扱実績



2015年は502tの食品を受け入れ、308の施設・団体に提供しました。

お米の寄付量



特集で紹介した緊急食料支援。炊飯できる家庭にはお米5kgを送ります。その支援が毎月200件以上。困窮家庭の個別支援だけで、毎月なんと1t以上のお米が必要なのです。新米の時期には古米の寄付が増えますが、その古米の在庫も春には尽きてしまいます。お米のご寄付をお願いします。